

はなやか関西「文化の道」フォーラムの開催結果について

東京 2020 オリンピック・パラリンピック等に向け、日本の歴史・文化・伝統の宝庫である関西の文化的魅力を全国にアピールし、関西文化の振興につなげるとともにその発信力を一層高めるため、関西ならではの文化・芸能の実演を交えたフォーラムを関西圏域外で初めて開催しましたので、ご報告します。

記

- 1 日 時 平成 30 年 2 月 3 日 (土) 14 時～16 時 30 分
- 2 場 所 観世能楽堂 (東京都中央区銀座 6-10-1 GINZA SIX 地下 3 階)
- 3 テーマ **ものがたり街道～三十三所巡礼～**
※関西に多数存在する能楽・人形浄瑠璃・歌舞伎などの古典楽劇の作品 (ものがたり) の舞台となったゆかりの地について、三十三箇所取り上げたもの
- 4 内 容
 - (1) 講演「解説 ～ものがたり街道とは～」 河内 厚郎 氏 (文化プロデューサー)
 - (2) 実演
 - ① 文楽素浄瑠璃「一谷嫩軍記 須磨浦 組討の段」
六代目 竹本 織太夫 氏／鶴澤 清志郎 氏
 - ② マイム「夢みる旅人」 いいむろなおきマイムカンパニー
 - (3) パネルディスカッション 「ものがたり街道へのいざない」
パネリスト 有栖川 有栖 氏 (作家)
楓 千里 氏 (JTB パブリッシング取締役法人情報事業部長)
河内 厚郎 氏
春野 恵子 氏 (浪曲師)
- 5 参加者 480名
- 6 講演・パネルディスカッションでの主な発言
 - ・人は、物語があれば飛びつく、なければ探すという習性がある。土地土地の歴史や物語を訪ねてきた人に提供すると、訪ねてきた方も嬉しいし、住んでいる方も自分の土地に愛着が沸く。
 - ・昔あったエピソードが、浪曲や小説、落語などの形でバトンタッチされてきた。今のアニメやコミックもそのバトンを受け取り、物語を伝えて発信し続ける強い発生装置になっている。
 - ・元々は能や狂言にあった物語が、歌舞伎や浄瑠璃になったものもあり、いろんなジャンルで同じ演目を楽しんでいただくとともに、関西に文楽や歌舞伎、能を見に来られるときに、舞台になった場所を訪れていただければと願っている。これが旅の楽しさになる。
- 7 参加者の反応 (アンケート結果から)
 - ・ものがたりの舞台が関西に多くあり、まだ知らない魅力があることを知った。
 - ・解説があったことでぐっと理解が深まり、パネルディスカッションのトークも楽しかった。
 - ・生の浄瑠璃の迫力、マイムの映像のような面白さなど、演目の組み合わせが良かった。 等